


マネジメント情報

事業活動との関わり

不二製油グループは事業特性上、生産工程において廃棄物を排出しています。その多くは各工場からの排水に含まれる汚泥や、油脂事業の精製工程で不純物を吸着させた後に発生する廃白土です。さらに製品廃棄についてもフードロスの観点から重要視しています。廃棄物の削減に取り組むことは事業活動に必要な資材やエネルギー資源を効率的に活用することにつながり、環境保全活動全般に寄与すると同時に原価削減にもなる重要な取り組みです。また、サーキュラーエコノミー実現のため資源の再利用の重要性は今後高まると認識しています。

考え方

不二製油グループは、「環境基本方針」に基づいて製品の製造工程における廃棄物削減に取り組んでおり、2030年に達成を目指す「環境ビジョン2030[※]」において、グループ全体での廃棄物を2030年までに原単位で10%削減するコミットメントを表明しています。

＞ 不二製油グループ 安全品質環境 基本方針 (PDF形式、306KB) 

※ 環境ビジョン2030の詳細については、以下のURLをご参照ください。

＞ https://www.fujioilholdings.com/sustainability/environmental_management/

推進体制

廃棄物の削減については、2021年度は最高ESG経営責任者（C“ESG”O）の管掌のもとで取り組みを推進していましたが、2022年度からESG担当役員のもとで推進する体制としています。また、ESGマテリアリティ^{※1}の一つとして、取締役会の諮問機関であるサステナビリティ委員会^{※2}において進捗や成果を確認しています。

※1 ESGマテリアリティの詳細については、以下のURLをご参照ください。

＞ <https://www.fujioilholdings.com/sustainability/materiality/>

※2 サステナビリティ委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

＞ https://www.fujioilholdings.com/sustainability/sustainability_management/

目標・実績

2030年目標 ^{※1}	2021年度実績 ^{※1}	達成率
原単位 ^{※2} で10%削減（グループ全体 ^{※3} ）	6.1%削減	61%
再資源化率99.8%以上を維持（国内グループ会社）	99.47%	未達成

※1 基準年：2016年度。

※2 生産量当たりの廃棄物量。

※3 廃棄物量は、インダストリアル フード サービスズ（オーストラリア）は除く。

○：目標に対して90%以上達成、△：目標に対して60%以上達成、×：60%未満

2021年度目標	2021年度実績	自己評価
環境ビジョン2030の社内浸透	<ul style="list-style-type: none"> グループ会社に対する環境ビジョン2030の説明を通じ、理解の深化を促進（オンラインで実施） グループ会社に対する環境データ集計と分析のフィードバック、および好事例の横展開を実施 	○
環境監査を通じた廃棄物の削減活動のレベルアップ	環境監査を4社に実施。検証、評価して改善を促すことで意識向上とグループ全体のレベルアップを促進	○
廃棄物の削減戦略を立てやすい環境の整備（担当者がタイムリーかつ容易に廃棄物関連データを確認できるデータ収集のシステム導入、動植物性残渣 [※] の有効利用方法および産業廃棄物の有価物化の取り組み事例の横展開）	環境データ収集システムの導入によりタイムリーなデータ取得環境を整備	○

※ 動植物性残渣：おからや製品サンプルなどの廃棄物。

考察

2030年目標に対する取り組み

海外グループ会社の一部の拠点で、自社基準で廃棄物量から除かれる物量（有価売却など）が廃棄物量に含まれていたため、目標基準年の2016年度以降、廃棄物量の修正と原単位の再計算を行いました。

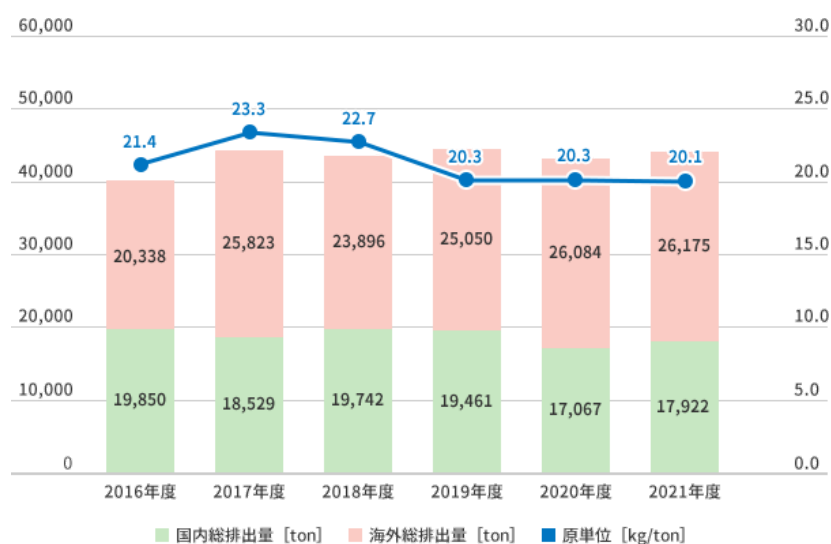
原単位は、前年は修正前の対基準年0.6%増加から5.1%削減と5.7ポイント好転し、2021年度は6.1%削減と、さらに1.0ポイントの削減となりました。目標の10%削減に対して、達成率61%となりました。原単位の削減は、前年に比べ生産数量が3.2%増加する中で、廃棄物量を2.2%増加に抑制できたためです。廃棄物量の抑制には、国内外の各拠点での汚泥含水率削減による廃棄物量削減や生産中に発生する製品ロス削減などが寄与しています。

また、国内グループ会社での再資源化率は前年99.37%に対し、2021年度は99.47%となり、0.1ポイント向上しました。廃棄物の分別を徹底することで、再資源化を推進しています。

2021年度目標に対する取り組み

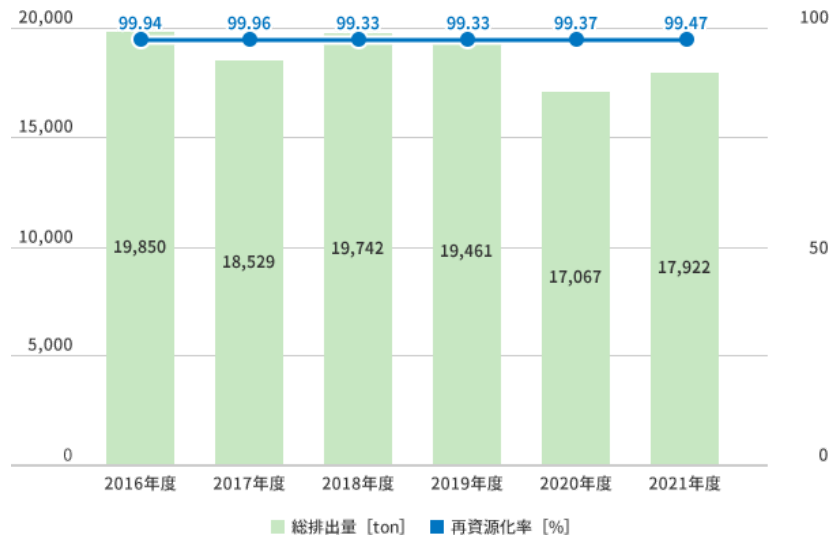
「環境ビジョン2030」の達成に向け、オンライン環境監査を通じて環境ビジョン2030の説明や再資源化の考え方などを共有しました。2021年度から導入した環境データ収集システムを活用し、タイムリーな情報収集やその分析を行い、削減活動に活かしていきます。

年間廃棄物総排出量と原単位推移



※ 2016年度以降の海外総排出量を修正して原単위를再計算しました。

国内グループ会社年間廃棄物総排出量と再資源化率



Next Step

- ・ 環境データ収集システムによるタイムリーな環境データ収集の開始
- ・ 削減活動の推進およびレベル向上

具体的な取り組み

廃棄物削減の取り組み

2021年度の廃棄物削減活動の一例は以下の通りです。

- ・ 不二製油（株）の阪南工場と神戸工場では、汚泥の含水率低減による重量軽減により廃棄物量を削減しました。
- ・ 不二製油（株）の千葉工場、不二つくばフーズ（株）では、工程改善による安定生産向上により製品廃棄物量を削減しました。
- ・ フジオイル（シンガポール）やフジオイル（タイランド）では、工程改善により汚泥や廃白土の廃棄物量を削減しました。
- ・ プラマー チョコレート カンパニー（米国）やフレリアバディ インドタマ（インドネシア）などグループ会社の各拠点で、製品廃棄物量の削減に取り組みました。

食品リサイクルの取り組み

国内グループ会社では「食品リサイクル法」に基づき、食品廃棄物の再利用に取り組んでいます。2021年度のリサイクル率は98.9%と、前年から0.4ポイント低下しました。国内グループ会社での生産量が対前年で増加したことに伴って、2021年度の食品廃棄物の発生量は33,755トンとなり、前年度に比べ729トン増加（2%増加）しました。

同法が食品製造業界に対して設定している目標は「食品循環資源の再生利用等（食品リサイクル）の実施率95%を達成」することですが、不二製油グループでは目標設定当初の2007年度から97.3%以上の高い実施率を達成し、その後も維持し続けています。しかしながら、生産の拡大により絶対量が増えることを将来発生し得る課題として認識し、副生物の利用方法の開発などにより高水準を維持してまいります。

関連資料

ESGデータブック (3.15MB) 